BURMA VISION

Vol 8 JUL. 1995

アジア仏教徒協会報

●アジア仏教徒協会
〒811-24 福岡県粕屋郡篠栗町城戸1035
篠栗四国総本寺南蔵院内☎(092)947-5660
☎(0955)28-0070 FAX(0955)28-0272

●発行人 小沢辰男 ●編集人 大宅弘海 ●主筆 小島宗光 ●紙面構成 株式会社 三光 企画室

Asia Buddhist Association
C/O NANZOIN Temple No.1035 Kido, Sasaguri-cho, Kasuya-gun, Fukuoka Ken, Japan, Zip 811-24
Phone(092)947-5660 Phone(0955)28-0070 Fax(0955)28-0272

よみがえる水と笑顔

日本ビルマ世界平和パゴダはナガヨン・マハボディーパゴダと呼ばれます。現地ではそのほうが通りのいい名称です。

マハーボディーは仏教をひらかれた仏陀をあらわし、神通力によって悪魔の侵入を阻止したナガヨン（竜神）の住む湖の主がその名の由来です。竜神の住む湖は、スイレンが咲かないとか魚も棲まないなどの七不思議伝説を残してきました。

市庁舎・病院・学校・ホテル等も隣接しています。都市部に八万五千人が住み、商業のほか水田三毛作・牧畜・椰子栽培等によって生計をたてています。

メティラ湖はこの地方の水がめとして人口二十六万人のいのちを支えてきました。近年湖水の汚染がひどく上場地帯にダムを造り薄め水を引き込んでいます。

濾過も殺菌もありません。

ところによってはコーヒー色の水をそのまま飲んでいます。七不思議伝説を解明すれば魚も住まないほどの塩化マグネシューム等が混在し、水質も硬度が高いため腎臓結石や尿道結石も多いのです。下痢はだれでも毎日のことで病院の調査では内臓疾患が圧倒的に多く、子どもたちの死亡が高いのもうなずけます。

ミャンマーの男女平均寿命はおよそ五十七才までのびました。タイ王国で約六十才、フィリピンは約六十二才、中国が約六十八才、日本は約八十才となっています。

ミャンマーに限ったことではありませんが、東南アジアの水事情は豊富な水量にもかかわらず病原菌の汚染源として熱帯病とともに深刻な事態にあります。

塩素消毒だけでも死は妨げるのに財政がまかなえないのです。

ミャンマー人と日本人の間にある二十年の寿命の差は何なのでしょうか。

最悪の病巣は貧困です。

「水」の浄化は乳幼児の死亡率を激減させ、平均寿命を十年延ばすといわれます。

弊会はアジア医師連絡協議会（AMDA）や岡山県哲多町とともにプロゼクトを組み、すでに計画を実施段階にうつしています。

日本ビルマ世界平和パゴダ境内の一角に設置が決定しました。メティラ中核・サンガ病院・水道局・保健所が連動し組織もできました。宗教省、開発省、保健省の政府機関の許可と保護体制もできました。十一月六日の法要に基礎うち式を執り行う予定です。

このシステムは一日一人当りの利用量を五〇リッターとして不充分ながら五〇〇人分の飲料水をつくります。

緩速濾過方式により維持管理が容易でコストも安く安全でおいしい水が得られるように設計されました。

この程度では大海原に石を投げるようなものかも知れません。

いのちと笑顔をとりもどす運動

平成六年五月八日より二十二日まで、日水コン中央研究所長小島貞男博士をキャップに第十七次「水」調査団を派遣し全国主要地の調査にあたりました。その報告は本紙に述べられている通りです。

引き続き平成七年六月四日より十日まで、第十八次「事前協議団」を派遣し大宅弘海理事長が団長をつとめ、南蔵院より栗原龍也氏が涅槃像落慶法要招待の使節となってその任にあたられました。

長いおつきあいではありますが、昨年より政府などの交渉機関としてマハ・ボディー協会（ウ・ココ会長・本部ヤンゴン）が弊会の窓口となり、宗教省・開発省・教育省・保健省へ案内していただき、交渉事務も成立してメティラの事業が着手されることになりました。

これはAMDA（アジア医師連絡協議会）と岡山県哲多町と弊会がプロゼクト・チームを結成して実施する「いのちと笑顔をとりもどす」環境医療を基とした奉仕活動です。

弊会はそこ此にある水から汚濁と病原菌を排除した安全な浄水を蘇みがえらせる技術と施設と組織力をもって奉仕し、AMDAからメティラ中核病院を拠点に高度な知識と技術をもった専任の医師を派遣して医療を施し、哲多町からは保健行政のノウハウを交換して住民サービスにつとめるなど、その総合力を提供しようとするものです。

もちろんテスト・ケースではありますが、今後維持管理に要する財政や普及は仏教サンガの存在なくしては考えられません。公共資金の乏しい国では寺院の機能に大きな役割が付加されているからです。